



## アクティブ バリュー オープン

愛称: **アクシア**

追加型投信/国内/株式

作成基準日: 2019年7月31日

※本資料の百分率は、原則として表示桁数未満を四捨五入していますので、合計の数値は必ずしも一致しません。

## ファンドの目的・特色

## 《ファンドの目的》

信託財産の長期的な成長を目指して積極的な運用を行います。

## 《ファンドの特色》

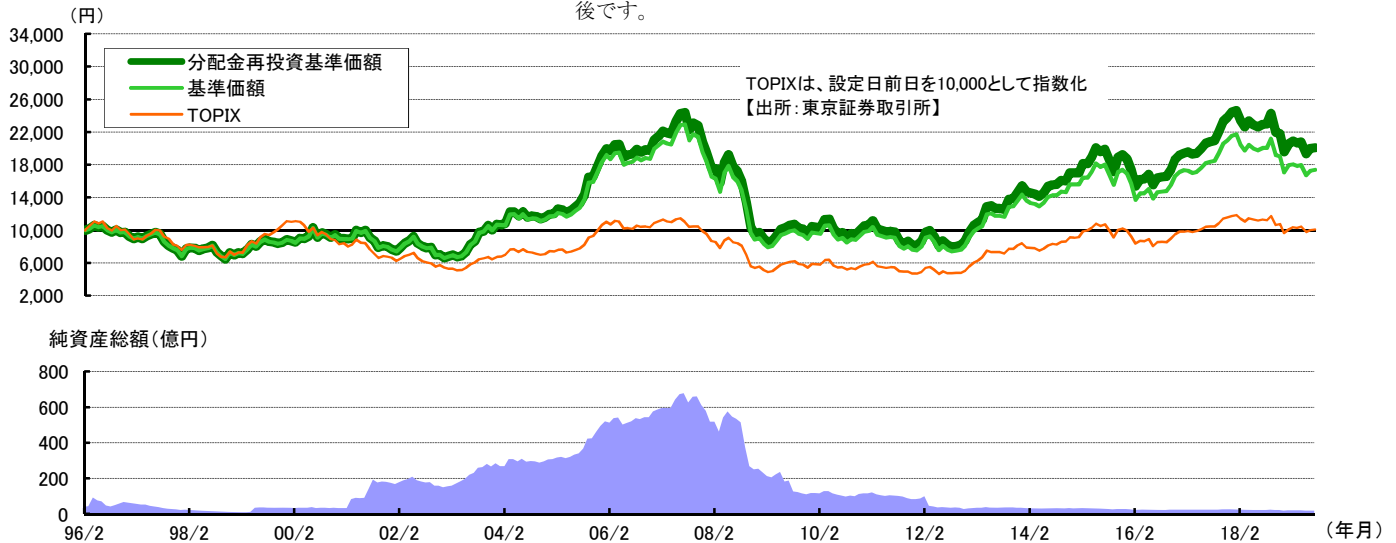
1. アクティブバリューマザーファンドを通じて、実質的にわが国の株式に投資します。
2. 株式の投資にあたっては、バリュエーション指標等の尺度により銘柄を選定します。
3. 株式の実質的な組入比率は高位に保つことを基本方針とします。
4. 東証株価指数(TOPIX)\*をベンチマークとし、中長期的にこれを上回る投資成果を目指します。

\*東証株価指数(TOPIX)とは、東証第一部上場全銘柄の時価総額を基準時の時価総額で除して算出したわが国の株式市場全体の値動きを表す代表的な株価指数です。TOPIXに関する一切の知的財産権その他一切の権利は株式会社東京証券取引所に帰属します。

※資金動向や市況動向によっては、上記のような運用が行われない場合があります。

## 基準価額と純資産総額の推移 (設定来: 月次)

分配金再投資基準価額は、収益分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したものです。なお、基準価額および分配金再投資基準価額は信託報酬控除後です。



## 商品概要

設定日	1996年2月29日
信託期間	無期限
決算日	2月27日 (休業日の場合は翌営業日)
信託報酬率	年 1.1124% (税抜 1.03%)
基準価額	17,376円
純資産総額	1,898百万円
株式組入比率※	97.8%

※ベビーファンドの実質組入比率

## 期間別騰落率

	当ファンド	TOPIX	差異
過去1ヵ月	0.5%	0.9%	-0.4%
過去3ヵ月	-3.3%	-3.3%	-0.0%
過去6ヵ月	-2.4%	-0.1%	-2.3%
過去1年間	-12.3%	-10.7%	-1.6%
過去3年間	22.5%	18.3%	4.2%
設定来	101.1%	1.2%	100.0%

(注) 収益分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したものです。

## 分配実績(1万口当たり、税引前)

決算期	分配金
第1期～第19期累計	1,450円
第20期 (2016/2/29)	200円
第21期 (2017/2/27)	200円
第22期 (2018/2/27)	200円
第23期 (2019/2/27)	200円
設定来分配金合計	2,250円

※運用実績および分配実績は過去の実績を示したものであり、将来の運用成果を示唆・保証するものではありません。

※本資料をご覧いただくにあたっては、6ページの「ご留意いただきたい事項」を必ずご確認ください。

## ■ 設定・運用は

T&amp;Dアセットマネジメント

電話番号 03-6722-4810(受付時間は営業日の午前9時～午後5時)  
インターネットホームページ <https://www.tdasset.co.jp/>

## 組入上位銘柄

No.	コード*	銘柄名	業種名	組入比率 (注1)	TOPIX ウェイト (注2)	アクティブ ウェイト (注3)
1	7203	トヨタ自動車	輸送用機器	4.4%	3.5%	0.9%
2	9432	日本電信電話	情報・通信業	2.4%	1.5%	1.0%
3	8766	東京海上ホールディングス	保険業	2.2%	0.9%	1.3%
4	8058	三菱商事	卸売業	2.2%	0.9%	1.3%
5	6758	ソニー	電気機器	2.2%	1.8%	0.4%
6	6501	日立製作所	電気機器	2.2%	0.8%	1.4%
7	6981	村田製作所	電気機器	2.2%	0.7%	1.5%
8	8306	三菱UFJフィナンシャル・グループ	銀行業	2.2%	1.6%	0.6%
9	6701	日本電気	電気機器	2.1%	0.3%	1.8%
10	8001	伊藤忠商事	卸売業	2.1%	0.6%	1.5%
その他 68銘柄				73.6%		

## 組入上位業種

No.	業種名	組入比率 (注1)	TOPIX ウェイト (注2)	アクティブ ウェイト (注3)
1	電気機器	17.6%	13.9%	3.8%
2	情報・通信業	11.5%	9.0%	2.5%
3	輸送用機器	6.5%	7.7%	-1.3%
4	卸売業	6.2%	4.9%	1.2%
5	小売業	6.1%	4.6%	1.5%
6	化学	5.3%	7.3%	-2.0%
7	機械	5.3%	5.0%	0.3%
8	医薬品	4.3%	5.6%	-1.3%
9	銀行業	4.2%	5.8%	-1.6%
10	陸運業	3.9%	4.7%	-0.8%
その他		26.8%		

(注1) ベビーファンドの実質組入比率 (注2) TOPIXの指数全体に占める各銘柄、各業種の構成比率 (注3) TOPIXウェイトとの差異

※本資料の百分率は、原則として表示桁数未満を四捨五入していますので、合計の数値は必ずしも一致しません。

## ファンドマネージャーのコメント

## &lt;株式市場概況&gt;

7月の株式市場は、米中通商交渉進展期待やFRB(米連邦準備制度理事会)による利下げ期待などから2カ月連続で上昇しました。7月上旬は、G20に合わせて開かれた米中首脳会談において貿易協議継続が決定されたことやファーウェイ(中国の通信機器メーカー)への部品販売も一部認める方針に転じたことを好感し上昇して始まりました。しかしその後、米国で発表された雇用統計が堅調であったことを受けてFRBによる大幅利下げ期待が後退し上昇幅を縮小させました。中旬においては、パウエルFRB議長の議会証言において早期利下げが示唆されると日本株も一時上昇しましたが、同時に円高米ドル安も進行したため外需株の重石となり、次第に株価の上値は重くなりました。下旬に入るとファーウェイへの規制緩和や米国での半導体市況の改善期待から日本の関連株が買われ上昇する場面もありましたが、その後発表が本格化した四半期決算において、市場コンセンサスを下回る業績を発表する企業が相次いだことが悲観視され一進一退の展開となりました。その結果、7月末のTOPIXは前月末比+0.9%の1,565.14で終わりました。

業種別株価指数の騰落率上位は①保険業(+5.0%)、②海運業(+4.9%)、③水産・農林業(+4.6%)など、下位業種は①鉄鋼(▲5.6%)、②証券・商品先物取引業(▲5.2%)、③石油・石炭製品(▲4.5%)などとなりました。

## &lt;ファンド概況&gt;

当ファンドの7月の基準価額騰落率は+0.5%となり、TOPIXの騰落率を約0.4%下回る結果となりました。情報・通信業や水産・農林業のオーバーウェイト、証券・商品先物取引業のアンダーウェイトなどがプラスに影響し、業種配分効果はプラスとなりました。一方で、半導体用シリコン大手のトクヤマ、大手食品メーカーの日本ハム、日本郵政の株価下落などにより、銘柄選択効果はマイナスとなりました。

投資行動としては、業績改善期待が高まった半導体用パッケージメーカー、空圧機器メーカー、海運大手の新規組入、株価上昇により割安度が低下した運送会社の売却などを行いました。

## &lt;今後の運用方針&gt;

7月下旬から本格化している四半期決算では、製造業を中心に市場予想を下回る大幅減益の決算が散見されます。また、米中通商協議や金利動向、英国の欧州連合(EU)離脱(ブレグジット)といった外部不透明感も強く、期初業績予想で多くの製造業が想定していた下期回復の前提には黄信号がともっていると見ています。このような環境の中、銘柄選択がますます重要となる局面と考えており、景気全体の影響を受けにくく、リストラや事業の構造転換、新商材など個別要因によって業績改善が期待できる企業に積極投資していく方針です。

当ファンドでは、引続き株式市場の”期待値の低い銘柄”の中から、業績モメンタム好転の可能性が高い銘柄の新規組入れ、ウェイト引上げ、業績やバリュエーションの観点から投資魅力の低下した銘柄の売却やウェイト引下げを行い、ファンドのパフォーマンス向上に努めてまいります。

※本資料をご覧いただくにあたっては、6ページの「ご留意いただきたい事項」を必ずご確認ください。

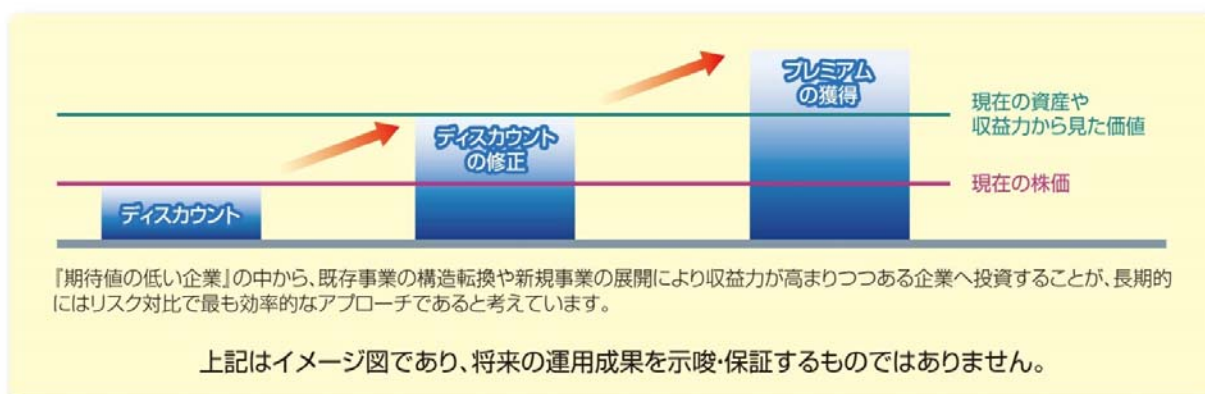
■ 設定・運用は

T&Dアセットマネジメント

電話番号 03-6722-4810(受付時間は営業日の午前9時～午後5時)  
インターネットホームページ <https://www.tdasset.co.jp/>

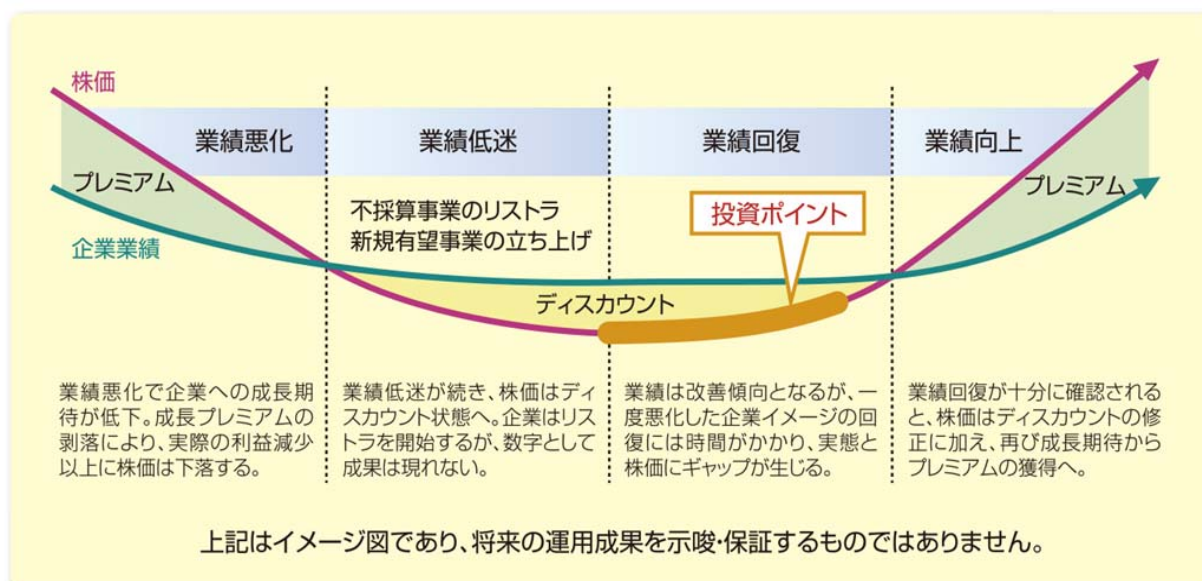
## ● 運用哲学 ～株式市場での「期待値の低い企業」に投資します～

- 株式市場では、現在の企業価値はもとより将来の可能性をプレミアムとして評価し株価が形成されています。過去、低収益・低成長であった企業に対する期待値は低く、実態よりディスカウントされた株価で取引される傾向があります。
- 企業の体質変化や成長スピードの加速を的確に評価することで、現実とイメージのギャップ解消(=ディスカウントの修正)、更には良いイメージへの転換による大幅な株価上昇(=プレミアムの獲得)の可能性を捉えます。
- すでに株価がディスカウントになっている企業への投資は、失望による株価下落リスクが限定的と考えられます。



## ● 運用手法の特色 ～ギャップの発生を探すアプローチ～

市場参加者の多くは、企業業績をベースに投資判断を行うと考えられます。しかし、業績の変化に対して市場が過剰反応することにより、株価は実態価値に対して、プレミアム⇄ディスカウントとなる状態が繰り返される傾向があります。



※本資料をご覧いただくにあたっては、6ページの「ご留意いただきたい事項」を必ずご確認ください。

■ 設定・運用は

T&Dアセットマネジメント

電話番号 03-6722-4810(受付時間は営業日の午前9時～午後5時)  
インターネットホームページ <https://www.tdasset.co.jp/>

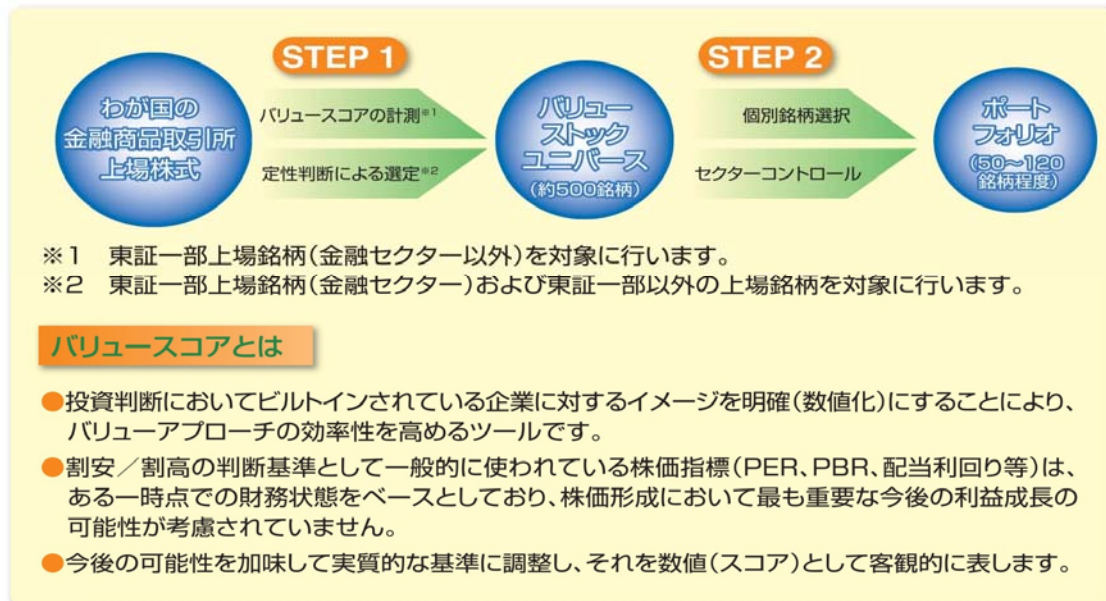
## ● 運用プロセス

### STEP 1

①ストック(資産)、②フロー(収益)、③投資リスクの3つの側面から客観的に割安度を計測した当社独自の「バリュースコア」を元にバリューストックユニバースを作成します。

### STEP 2

期待値の低い企業に着目した個別銘柄選択と、リスクコントロールの観点から組入銘柄を判断するセクターコントロールの2つのアプローチでポートフォリオを構築します。



資金動向や市況動向等によっては、上記のような運用が行われない場合があります。

## 投資リスク

### 基準価額の変動要因

ファンドの基準価額は、投資を行っている有価証券等の値動きによる影響を受けますが、これらの運用による損益は全て投資者に帰属します。

したがって、ファンドは投資元本が保証されているものではなく、基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。なお、ファンドは預貯金とは異なります。

●ファンドの基準価額の変動要因となる主なリスクは次の通りです。

<b>株価変動リスク</b>	株式の価格は、発行企業の業績や財務状況、市場・経済の状況等を反映して変動します。特に企業が倒産や大幅な業績悪化に陥った場合、当該企業の株価が大きく下落し、基準価額が値下がりする要因となります。
----------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------

※基準価額の変動要因(リスク)は、上記に限定されるものではありません。

### その他の留意点

#### ◆分配金に関する留意点

- ・分配金は、預貯金の利息とは異なり、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。
- ・分配金は、計算期間中に発生した収益(経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益)を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。
- ・投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりの方が小さかった場合も同様です。

※本資料をご覧くださいにあたっては、6ページの「ご留意いただきたい事項」を必ずご確認ください。

■ 設定・運用は

## 手続・手数料等

### お申込みメモ

購入単位	販売会社が定める単位 詳しくは販売会社にお問い合わせください。
購入価額	購入申込受付日の基準価額
購入代金	販売会社が定める期日までにお支払いください。
換金単位	販売会社が定める単位
換金価額	換金申込受付日の基準価額
換金代金	原則として換金申込受付日から起算して4営業日目からお支払いします。
申込締切時間	原則として午後3時までに販売会社が受付けたものを当日の申込分とします。
換金制限	信託財産の資金管理を円滑に行うために大口の換金申込には制限があります。
購入・換金申込受付の中止および取消し	金融商品取引所における取引の停止、その他やむを得ない事情があるときは、購入、換金の申込の受付を中止することおよびすでに受付けた申込の受付を取消すことがあります。
信託期間	無期限(1996年2月29日設定)
繰上償還	受益権の総口数が10億口を下回ることとなった場合、その他やむを得ない事情が発生した場合には、繰上償還となる場合があります。
決算日	2月27日(休業日の場合は翌営業日)
収益分配	年1回、毎決算時に収益分配方針に基づいて収益の分配を行います。 販売会社との契約によっては、税引後無手数料で再投資が可能です。
信託金の限度額	5,000億円
公 告	委託会社が投資者に対してする公告は、原則として電子公告により行い、委託会社のホームページに掲載します。
運用報告書	毎決算時および償還時に交付運用報告書を作成し、販売会社を通じて知っている受益者に交付します。
課税関係	課税上は、株式投資信託として取扱われます。 公募株式投資信託は税法上、少額投資非課税制度および未成年者少額投資非課税制度の適用対象です。 配当控除の適用が可能です。

## ファンドの費用

### 投資者が直接的に負担する費用

購入時手数料	購入価額に、 <b>2.7%<sup>*</sup>(税抜2.5%)</b> を上限として販売会社が個別に定める率を乗じて得た額とします。 ※消費税率が10%になった場合は、2.75%となります。 購入時手数料は、ファンドの商品説明、販売に係る事務費用等の対価です。 詳しくは販売会社にお問い合わせください。
信託財産留保額	ありません。

### 投資者が信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用(信託報酬)	毎日、ファンドの純資産総額に <b>年1.1124%<sup>*</sup>(税抜1.03%)</b> の率を乗じて得た額とします。 ※消費税率が10%になった場合は、年1.133%となります。 ファンドの運用管理費用(信託報酬)は日々費用計上され、ファンドの基準価額に反映されます。なお、毎計算期間の最初の6ヵ月終了日および毎計算期末または償還時にファンドから支払われます。 信託報酬＝運用期間中の基準価額×信託報酬率 [運用管理費用(信託報酬)の対価の内容] 委託会社: 委託した資金の運用等の対価 販売会社: 購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理等の対価 受託会社: 運用財産の保管および管理、委託会社からの指図の実行等の対価
その他の費用・手数料	<ul style="list-style-type: none"> <li>信託財産にかかる監査費用および当該監査費用にかかる消費税等に相当する金額は、受益者の負担とし、信託財産中から支弁します。</li> <li>証券取引に伴う手数料、組入資産の保管に要する費用等は、信託財産中から支弁します。</li> </ul> これらの費用・手数料については、運用状況等により変動するものであり、事前に料率・上限額等を示すことができません。

上記の費用の合計額については、投資者がファンドを保有される期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

※本資料をご覧いただくにあたっては、6ページの「ご留意いただきたい事項」を必ずご確認ください。

■ 設定・運用は

T&Dアセットマネジメント

電話番号 03-6722-4810(受付時間は営業日の午前9時～午後5時)  
インターネットホームページ <https://www.tdasst.co.jp/>

## ファンドの関係法人の概況

【委託会社】 ◇ 信託財産の運用指図等を行います。

### T&Dアセットマネジメント株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第357号

加入協会／一般社団法人投資信託協会 一般社団法人日本投資顧問業協会

【受託会社】 ◇ 信託財産の管理・保管業務を行います。

### 三菱UFJ信託銀行株式会社

(再信託受託会社: 日本マスタートラスト信託銀行株式会社)

【販売会社】 ◇ 受益権の募集・販売の取扱、換金(解約)事務、換金代金・収益分配金・償還金の支払等を行います。

※ 次頁にファンドの販売会社の名称等を記載しています。

## ご留意いただきたい事項

◆ 本資料はT&Dアセットマネジメントが作成した販売用資料です。本資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等により作成したのですが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、本資料に掲載されているグラフ、パフォーマンス等の内容は過去の実績を示したものであり、将来の運用成果等を保証するものではありません。本資料に掲載されている意見・見通しは表記時点での当社の判断を反映したものであり、将来予告なく変更されることがあります。

◆ 投資信託はリスクを含む商品であり、株式および公社債等値動きのある有価証券(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)に投資しますので、運用実績は市場環境等により変動します。したがって、元本が保証されているものではありません。これら運用による損益は全て投資者に帰属します。

◆ 投資信託は預貯金や保険契約と異なり、預金保険・貯金保険・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、登録金融機関でご購入いただいた場合、投資者保護基金の支払対象とはなりません。

◆ 投資信託のご購入時は、各販売会社より投資信託説明書(交付目論見書)をお渡ししますので、必ず内容をご確認のうえ、ご自身でご判断いただきますようお願いいたします。

■ 設定・運用は

T&Dアセットマネジメント

電話番号 03-6722-4810(受付時間は営業日の午前9時～午後5時)  
インターネットホームページ <https://www.tdasset.co.jp/>

**販売用資料**

お申込の際は、「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容をよくお読みください。

**販売会社の名称等**

2019年8月1日現在

販売会社	登録金融機関	登録番号	日本証券業協会	一般社団法人 日本投資顧問業協会	一般社団法人 金融先物取引業協会	一般社団法人 第二種金融商品取引業協会
株式会社足利銀行	登録金融機関	関東財務局長 (登金)第43号	○		○	
SMBC日興証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長 (金商)第2251号	○	○	○	○
株式会社SBI証券	金融商品取引業者	関東財務局長 (金商)第44号	○		○	○
カブドットコム証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長 (金商)第61号	○		○	
株式会社大正銀行	登録金融機関	近畿財務局長 (登金)第19号	○			
高木証券株式会社	金融商品取引業者	近畿財務局長 (金商)第20号	○			
東海東京証券株式会社	金融商品取引業者	東海財務局長 (金商)第140号	○		○	○
野村証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長 (金商)第142号	○	○	○	○
株式会社広島銀行	登録金融機関	中国財務局長 (登金)第5号	○		○	
フィデリティ証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長 (金商)第152号	○			
マネックス証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長 (金商)第165号	○	○	○	
三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長 (金商)第2336号	○	○	○	○
めぶき証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長 (金商)第1771号	○			
楽天証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長 (金商)第195号	○	○	○	○

※加入協会に○印を記載しています。

※SMBC日興証券株式会社は、ダイレクトコースでのお取扱いとなります。

※東海東京証券株式会社は、同社にSMA取引口座を開設した場合に限ります。

※野村証券株式会社および株式会社足利銀行は新規取引のお申込は受付けておりません。

※本資料をご覧くださいにあたっては、6ページの「ご留意いただきたい事項」を必ずご確認ください。

## ■ 設定・運用は

**T&Dアセットマネジメント**電話番号 03-6722-4810(受付時間は営業日の午前9時～午後5時)  
インターネットホームページ <https://www.tdasstet.co.jp/>